

## 平成 24 年度第 1 回鹿児島県大学図書館協議会研修会

日時：平成 24 年 11 月 1 日(木)13:30～14:30

場所：鹿児島県立短期大学 本館 2 階 大会議室

テーマ：「利用しやすく、利用を促進する図書館の取組みを考える」

### 各館からの事例発表

#### 1. 第一工業大学

- ・利用が少ない原因は、①工学専門の図書館である ②16:30 にスクールバスが出発する ③学生は部活動やアルバイト等で利用時間帯が制限されていることであると考えられる。
- ・利用を促進するために、リクエスト制度や新着図書のご案内・展示場所の工夫、オリエンテーションでの施設案内、検索方法、相互貸借等の指導を行っている。
- ・20:00 までの開館延長を行い、17:00 以降の対応は学生アルバイト 2 名で行っている。

質問：17:00 以降は学生アルバイトで対応とのことだが、今まで問題はなかったか。

回答：警備員が学内に常駐していて、戸締り等は警備員に依頼している。現在のところ特に問題はない。

#### 2. 鹿児島大学

- ・アメニティルームの設置やギャラリー“アトリウム”、大学歴史展示室の開設により入館者が増加したが、入退館システムの導入により入館者数が若干減少した。
- ・年 3～4 回図書館職員がテーマを決めて行うブックガイド（展示）により、学生が興味を持って本を読むようになった。
- ・オープンキャンパス、Library Lover's キャンペーン等のイベントへの参加、公式キャラクター、電子掲示板を設置し情報を発信する等、学生へ図書館の興味を持たせることを行っている。

#### 3. 鹿屋体育大学

- ・体育系の大学で、学生が部活動を行っていることが、図書館利用の少ない原因の一つと考えている。
- ・図書館改善のためのアンケート調査を行ったところ、在学生約 900 名のうち、約 600 名の回答が集まり、現在集計中である。
- ・教員推薦図書では足を止める学生が多い。
- ・放送大学の教材を 200 冊ピックアップしコーナーに並べている。
- ・21:00 まで開館時間延長を行っており、延長時間は学生アルバイトが対応をしている。

#### 4. 鹿児島国際大学

- ・今年度から学科選定図書コーナーを作り、教員からの推薦された本を1か所にまとめて配架している。
- ・他にも、常設のコーナーとして、①新着図書コーナー、②サポーター選書、③ジェンダー関連、④ビブリオバトル関連、⑤東日本大震災を設けている。
- ・図書館の活性化のために、図書館サポータに選書(年2回)、ブログ更新、不定期ではあるが「晴耕雨読」の発行を行ってもらっている。

#### 5. 鹿児島純心女子大学

- ・スタンプラリーを実施し、ポイントを集めると、図書館オリジナルバッグを贈呈している。ポイントは、本15冊以上借りた時、データベース講習を受けた時1ポイント付与され、ポイントの有効期限は卒業するまでである。教員も対象としている。
- ・新着本の展示を行っており、学生が読みたい本を提供している。短大や中学、高校の本も置いている。
- ・リクエスト制度があり、年度毎に1件のリクエストができる。

#### 6. 鹿児島県立短期大学

- ・1冊本を借りる度にポイントが付くポイントカードを実施(ポイントに応じて司書～学長までの握手等の特典あり)。
- ・i-Padを6台導入。図書検索情報画面を書架まで持ち運べるようになった。
- ・図書館ブログはほぼ毎日更新している。
- ・図書館サポーター(Kentan Library Club = KLC)の写真集を作成し、メンバーの顔が分かるようにしている(図書館職員のみ閲覧)。
- ・図書館サポーター活動①年数回の店頭選書②大学祭や県青年会館の読書活動に参加③オープンキャンパスで図書館案内④図書館業務の補助(書架整理等)
- ・ミニギャラリーでは、学生・教職員の協力を得て毎月テーマ展示を実施。
- ・木製の図書館マスコットの置き場を毎回変えて注目を集めるように演出している。
- ・閲覧席の足元に荷物用のバスケットを設置している。
- ・県短に関する新聞記事を「県短インフォメーション」として掲示している。

質問：i-Padの利用規則などはどうなっているのか。

回答：i-Padは館内利用のみ。学生数やゼミの人数からみても、現在の台数で問題ないようである。

i-Padにバーコードを貼り、館内貸出をしている。利用している時間は1～2時間程度のものである。

## 7. 鹿児島純心女子短期大学

- ・館内の書架等を移動させ、すっきりでゆったりとした空間に模様替えを行った。
- ・国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に参加することにより、同じようなレファレンスがあったとき、過去の回答を参考にできるようにしている。
- ・facebook を準備中である。学生が他大学の学生がどのような本を読み、何を感じているかということが分かる点が Facebook を導入するメリットとして挙げられる。
- ・短大のロゴ入りブランケットを貸し出し、学生にウォームビズの協力を求めている。

## 8. 鹿児島女子短期大学

- ・学生主催のものも含め、年に数回企画展を行っている。過去の主な企画展は HP に掲載している。
- ・季節に合わせた本の展示を行っており、本を手取る学生が多い。クリスマスの時期に合わせた企画展示では、展示期間中にくじ引きで雑誌の付録を景品としてプレゼントしている。数が限定されるが、学生には好評である。
- ・今年度の Library Lover's キャンペーンでは、九州文学地図の企画展に参加し、文学地図のコメントやキャンペーン期間中に冊数に応じて本を借りた学生に貸出用バッグをプレゼントした。バッグをもらった学生が友達に紹介することにより、キャンペーンの周知、利用促進につながった。
- ・廃棄雑誌（一般雑誌）を学生へプレゼントしている。
- ・学生とのコミュニケーションが、おすすめ図書の照会等につながっている。また、館内での質問には随時対応し、正確に早く対応するように努めている。
- ・雑誌架を木製に変えたことにより、館内が明るくなり書架周辺で閲覧する学生が増えた。また、館内の整理整頓や開館前の掃除を行うことで学生が気持ちよく利用できるよう日々努めている。
- ・学生リクエスト マンガや内容が偏っているもの以外はできるだけ購入するようにしている。
- ・学生からの要望は「みんなのこえポスト」を設置して、受け付けている。

質問：貸出用バッグはどのようなものか。

回答：鹿児島女子短期大学付属図書館の英語表記がされた不織布のものである。

## 9. 第一幼児短期大学

- ・258名 幼児教育科のみの単科短大で、幼児短期大学のみの独立館になって3年目である。
- ・短大生は空き時間が少なく、スクールバスを利用する学生が多いため時間的余裕がない。
- ・単科の短大なので、年間のスケジュールに合わせた支援がしやすい。
- ・学生の実習や課題を月毎にまとめて表にし、学生に紹介をしている。
- ・新入生の最初の宿題であるボード作りのヒントにしてもらうことと、入口付近を明るくする目的でウェルカムボードを作成している。ボードは、上級の学生と一緒にアイデアを出し

ながら作成した。

- ・各学年で年 3 回実習があるので、実習貸出を始めた。学生の実習は幼児の年齢で分かれているので、実習に必要な絵本は、対象年齢別に配架したところ、学生から好評だった。
- ・身近で親しみやすい図書館にしたいと思っている。

#### 10. 鹿児島工業高等専門学校

- ・ブックハンティングコーナーには、学生が希望した図書を 1 年間配架している。
- ・新着図書コーナーの他に、シラバスコーナー、参考図書コーナー、就職コーナー、進学コーナー等、授業や就職・進学関連のコーナーを設けている。
- ・英語多読コーナーには、英訳された日本の漫画を置いている。
- ・TOIC、工業英検コーナー、資格試験コーナーには、攻略本や問題集を置いている。
- ・特設コーナーに、その時々合うテーマに関連した図書が置かれ、現在は、IPS 細胞関連の本を置いている。
- ・本校で行っている作文コンクールの課題作品を平成 22 年度から、本屋大賞、芥川賞、直木賞等 15 ほど賞を決め、受賞作品を 2 冊ずつ購入している。
- ・電子ジャーナル「J Dream II」の講習会を、科学技術振興機構より講師を招き、専攻科 1 年生に行っている。
- ・検索用パソコン 5 台は、検索だけでなく、レポート作成ができるようマイクロソフト Office2010 をインストールしている。
- ・学生が希望する図書、教員が推薦する図書はできるだけ購入するようにしている。

#### 11. 志學館大学

- ・移転に伴い透明なガラス張りのグループ学習室を 3 室設置した。学生の利用も多く、みられる効果があり、増設も検討している。
- ・書架・閲覧スペースから離れた空間に学生ラウンジを設置した。新聞や AV コーナー、自由に使える PC があるためにくつろげる空間として人気がある。
- ・カウンター前に自動貸出返却機を設置した。学生は積極的に利用している。
- ・学内無線ランを館内でも使用できるよう環境を整えている。
- ・授業がある平日は 20 時まで、土曜日は 16 時まで開館している。
- ・学生サポーター、学生アルバイトの導入で、学生にとって身近な場所とじてもらえるようになった。
- ・希望者に情報検索の講習会を実施している。3 年心理臨床学科のゼミや大学院生は必ず受講しており論文を探す際に役立っている。
- ・図書や視聴覚資料のリクエストは問題のない限り冊数制限なく受け付けている。